

## 「御霊に満たされなさい」

(出エジプト記13章17節～22節)

今週のみこ と ば 「【主】は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中において、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。」(13:21)

(エペソ人への手紙5章11節～20節)

「また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。」(5:18～20)」

## 今日のメッセージ要旨

◎私達は毎日生活していく内に、自分ひとりが自分の人生を切り開いていかなければならないと思いがちです。はたしてそうなのでしょうか？

◎出エジプト記13章17節以下は、エジプトを脱出した民を神様がルートを決めて導かれ、また3つの点で働られたのです。①「パロがこの民を行かせた」(17)、「急ぎ立てて、無理にゆかせた」のです。神様は異邦の王パロの心をも支配しておられたのです。②「ペリシテ人の国の道に導かれなかった」(17)、神様はカナンに行くのに最短ルートではなく、そのルートには堅固な駐屯地があるため、民が恐れを抱いて前進をためらわないため、別のルートを定められたのです。③「葦の海」紅海のスエズ湾の北側の道に導かれたのです。民は「昼は雲の柱、夜は火の柱」に導かれて旅をしたのです。これは主の臨在に守られての旅路であったことの証しです。

◎エペソ人への手紙5章は内容的に2つに分解されます。①4章17節～5章21節、新しい生活についての勧めと警告、②22節～6章9節、家族関係についての勧め、です。今日は①の一部分から導かれたいと思います。

◎最初の部分で、キリストを信じる者は、①「神に愛されている子ども」なのです(1)。聖徒にふさわしく歩むことが求められているのです。②「光の子どもなのです。」(2)。「暗闇の業を行うのではなく、賢い人のように歩むこと」が求められているのです。③「聖霊に満たされる」ことを追い求めることが大切なのです(18)。私達も「以前」は「暗闇」でした。「不従順な子らに下る神の怒りを受けるべき者」であり、「偶像礼拝者」でした。しかし、「今」はイエス・キリストによって「光」とせられたのです。霊的死者の中から生かされてキリストの光の中に入れられているのです。ですから「今」という時を弁えて放蕩に走るのではなく、「機会を生かして用い、主のみこころを知る」ことが大切なのです。

◎人が「聖霊に満たされる時」に初めて「詩と賛美と霊の歌とをもって互いに語り合う」ことが出来るのです。ここに人間関係の確立があります。更に「主に向かって心から歌い、賛美し、いつでも父なる神に感謝する」ことが出来るのです。即ち「喜びと感謝をもって神様に仕え」「人との交わりが深め」られてゆくのです。そこから「キリストを恐れ、尊んで互いに従いなさい」とある最も身近な者との関係が深められてゆくのです。ですから色々な問題があればあるほど「聖霊の恵みを求める」ことが大切なのです。決して人間的な考えを優先させてはならないのです。私達は聖霊の感化によって救われたのですが、聖霊に全面的に明け渡すことによって初めて「聖霊に満たされ、聖霊に支配される歩み」に入れられるのです。キリストを主と仰ぎ、主にすべてを明け渡して歩みましょう。